

CASBEE® 名古屋

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(建築)2016年版、名古屋中規模建築物環境性能評価マニュアル2016

使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v1.0)

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)クスのアオキ野田店 新築工事	階数	地上2F
建設地	名古屋市中川区野田一丁目380番,381番,383番,384番,389番,390番,391番	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	331 人
地域区分	6地域	年間使用時間	5,475 時間/年(想定値)
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年3月 予定	評価の実施日	2020年6月18日
敷地面積	2,132 m ²	作成者	
建築面積	1,248 m ²	確認日	2020年6月18日
延床面積	2,437 m ²	確認者	
2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)		2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	
= BEE0.9 ★★★★★ S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★ 		 標準計算 ①参照値 100% ②建築物の取組み 79% ③上記+②以外の 79% ④上記+ 79% このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO ₂ 排出量の目安で示したものです	
2-3 大項目の評価(レーダーチャート)			
2-4 中項目の評価(バーチャート)		Q のスコア = 2.7	
Q 環境品質 Q1 室内環境 Q1のスコア= 2.9 		Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.0 	
LR 環境負荷低減性 LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.5 		LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 2.9 	
		LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 2.9 	
3 設計上の配慮事項		LR のスコア = 3.1	
総合 充分な空間の広さや昼光利用することで快適性を高めており、耐用年数の高い配管の利用は資源の有効利用につながる。		その他 無し	
Q1 室内環境 F★★★★の建築材料をほぼ全面的に使用している。		Q2 サービス性能 天井高を広く取り、開放感・快適性をもたしている。	
LR1 エネルギー 設備システムの効率化に配慮している。		LR2 資源・マテリアル 資源の有効活用に努めている。	
		LR3 敷地外環境 敷地外への熱的な影響の低減に努めている。	
		Q3 室外環境(敷地内) 敷地内に緑地を確保し、暑熱環境を緩和している。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)クスリのアオキ野田店 新築工事

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v1.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.4
LR1	エネルギー	3.5	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.8	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				1.3
Q3.1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	2.0	0.045	
3. 循環型社会				2.7
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	2.5	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.3	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 3.4



2. 自然共生

評価点 = 1.3



3. 循環型社会

評価点 = 2.7



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。